

<全体分析>

試験時間 90分

解答形式

記述・計算・論述・選択

分量・難易 (前年比較) 分量 (減少・**変化なし**・増加) 難易 (易化・**変化なし**・難化)

出題の特徴

解答分量の多さは例年通り。

その他トピックス

特になし。

<大問分析>

番号	出題形式	出題分野・テーマ	範囲	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
I	記述 計算 論述	天文：太陽	地学	計算問題はやや煩雑だが答が推定できるものが多い。それを参考に計算するのがよい。	やや難
II	記述 論述 計算	海洋： 水温 塩分 溶存酸素	地学	京大らしい大まかなデータをもとに話が展開されている。中心課題はデータ図の読み取りである。	標準
III	記述 計算 論述	固体地球： プレートと 内部構造	地学	問1～問3は、やや定番問題に近い。問4は条件文と資料図をしっかりと読み取ること。	標準
IV	選択 論述	地質地史： 地質平面図	地学	問2を丁寧に取り組むこと。 問5は簡潔にまとめること。	やや易

※難易度は5段階「難・やや難・標準・やや易・易」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

相変わらず計算問題、論述問題の比率が非常に高い。解答用紙の解答欄の大きいものが多数ある。学習対策としては、計算・論述に十分時間をかけるべきであり、時間配分にも日頃から十分気をつけたい。200～300字という長文論述問題への対応力も必要だが、100字程度の論述練習を繰り返して準備しておきたい。計算問題は計算を終えた後で、その解が常識的に納得できるものかの判断力も必要である。